

GROWING UP

札幌リハビリテーション専門学校
同窓会誌
令和6年 4月2日

CASE STUDY

札幌リハビリテーション専門学校
同窓会主催

2024年3月9日(土)
13:00~15:30(受付12:30~)
札幌リハビリテーション専門学校
4F多目的室
中央区北4条西19丁目1-3

申し込み QRコードより申込み下さい
<http://satsureha-dousoukai.com>
締切 2024年 3月5日(火)

PT座長

フィールドクルーズ
大野 大地先生 6期卒

歩行を諦めない！
頸髄損傷による四肢不全麻痺患者の
歩行を再獲得できた一症例
イムス札幌内科リハビリテーション病院
小林 春奈先生 15期卒

病態に対する地域アプローチ
イムス札幌内科リハビリテーション病院
出戸 遥香先生 15期卒

座位姿勢改善を通し
活動範囲拡大を目指した症例
深仁会 定山溪病院
西尾 空徒先生 19期卒

多数の下肢整形疾患を呈する
利用者の職場復帰を目指した事例
深仁会真駒内在宅クリニック
田口 恭也先生 17期卒

OT座長

深仁会リハビリテーション病院
堀 翔平先生 9期卒

段階的な目標設定で麻痺手の
使用頻度と質が向上した例
深仁会リハビリテーション病院
辻浦 賢汰先生 17期卒

統合失調症患者に焦点を当てた
長期入院患者に対する退院支援の経過
登別三愛病院
小川 桃加先生 16期卒

バスの乗車訓練をしたことで
活動範囲が拡大
深仁会真駒内在宅クリニック
藤田 真徳先生 11期卒



<R6.3.9 開催事例検討会感想>

令和5年度事例検討会が無事に終わりました。今回の事例検討会では7題の事例を元に、在校生と卒業生、現役教員でグループに分かれて事例検討を行いました。検討会では、卒前、卒後教育をテーマに「卒業生」「在校生」「教員」総勢60名がひとつの空間で繋がり、臨床での事例をもとに色々なディスカッションを行うことで学習が深まった非常に良い会となりました。様々な分野で活躍されている卒業生と実習を控えた学生やこれから臨床に出る在校生などが交わることで色々な話が飛び交い、とても活発なディスカッションを行うことができました。

今回、演題発表を行っていただいた方々並びに座長を務めていただいた方々に感謝しております。また、この度の事例検討会を踏まえまして来年度はさらに有意義で進化した事例検討会を実施しています。来年度のご参加もお待ちしております。演者・座長・運営・参加者全て、皆様の協力の元素敵な会となりました。今回はご参加いただき誠にありがとうございました。

17期 村山穂果

＜アンケート結果＞

1. 今回の講演会について

- ・臨床での視点に触れることができ、大変参考になりました。(複数回答)
- ・分野別ならでは意見も多く非常に有意義な時間でありました。(複数回答)
- ・今まで使用したことの無い評価バッテリーをなどを知ることが出来る貴重な機会になりました。
- ・身体障害領域のみではなく精神科領域の発表も聞くことができ、様々な視点で学べ、今後の実習でも生かそうと思います。(複数回答)
- ・グループディスカッションについて新たな試みで非常に面白かった。1事例に対しての時間がもう少し欲しかった。
- ・学生も参加していたため、もう少し時間があれば評価についてや講演演題についても説明することができたが、今回は不十分だったため申し訳なかった。
- ・今後も機会があればぜひ参加したい。(複数回答)
- ・今回はPT・OT分けずにディスカッションができたことは、参加者の刺激になったと感じました。また、在校生が参加することで意識の変化が見えることを期待。
- ・今回の内容はボリュームがあってディスカッションや質疑など不燃焼に思う人もいたのかなと思います。役員の皆様、企画・運営本当にお疲れさまでした。
- ・話し合いが活発で、在校生が発言しやすい場であった。
- ・座長として貴重な経験をさせていただきました。

2. 同窓会の進行はスムーズだったか

(はい 72.2%・いいえ 27.8%)

3. 講演時間について

(適切 61.1%・長い 11.1%・短い 27.8%)

4. 事例検討会の案内について

(適切だった 94.4%・適切ではなかった 5.6%)

5. 今後の講演会への希望

- ・心臓リハビリテーションについて
- ・今回のように多様な実践をしている卒業生の事例を、グループ検討することを継続または、定期開催を希望いたします。
- ・参加者が主体的に取り組めるので事例検討やディスカッションがいいと思います。
- ・今回のアンケート結果を踏まえて、次年度にもう一度「症例検討会」を企画していただきたいです。
- ・日本 OT 学会や回復期リハ研究大会、デイケア研究会の札幌開催に合わせたコラボ企画

6. 事例検討会についてご意見

- ・発表に際して予演会などを行っていないため、制限時間内に読み切れる内容ではなかった。事前に資料の配布を行い読んでもらう等の工夫必要。(複数回答)
- ・症例検討であるならば演題を減らしても検討事項に対してもっと時間を割り質問や確認事項などをもっと積極的に行えるような方がいいと思う。(複数回答)
- ・もう少し検討する時間、発表する機会があるとより良いと感じた。(複数回答)
- ・グループ内で症例検討する時は、最初に自己紹介をする時間を設けたほうが緊張が解け、その後のディスカッションがスムーズに進められると思いました。
- ・これから臨床に出る人や経験年数の浅いセラピストの方の不安や日々の悩みをざっくばらんに相談できるのも「同窓会」のいい所だと思いますので、今後もこのような会が継続できるとよいと感じました。

・発表者の方にも還元できるものであってほしい。座長の方から一言でも発表者の方へのコメントやアドバイスがあっても良かったな、と感じました。

<編集後記>

春の陽射しを感じるこの頃、ご健勝にお過ごしのことと存じます。

事例検討会に参加していただいた皆様、アンケートのご協力ありがとうございました。また、お忙しい中、演題発表を行っていただいた皆様、座長を務めていただいた方々、改めて感謝申し上げます。

今回の事例検討会では実際の臨床の生の声や普段携わっていない分野の話、職種ごとに違う観点から検討することができ、実際に臨床に活かせることが出来る意見も多くあり、とても有意義な機会になったのではないかと思います。皆様からの貴重なご意見を次回に活かしより良い企画・運営に尽力いたします。

さて、令和6年度も講演会・事例検討会につきましては講演内容を検討し実施する予定です。内容が決まり次第、ホームページ、Facebook、LINE@、Instagramにて告知致します。次回の講演会・事例検討会も皆様のご参加をお待ちしています。

編集者：佐藤祐弥 村山穂果
伊藤悠莉